



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第76回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

マナー編 白線きちんと引かれていますか?

練習試合でのことです。バッタースボックスのホームベース側のラインとホームベースとの幅がかなり狭いように思いますが、問題はないでしょうか。

練習試合では、試合前のグラウンドのライン引きをホームチームの選手がやっていることが多いですね。ライン引きは、試合前と5回終了後のグラウンド整備時に行われますが、練習試合などを見てもバッタースボックスのホームベース側のライン(白線)とホームベースとの幅がかなり狭い時があり、ボール1個分の幅しか空いていないこともあるようです。プレイに影響はないのか考えてみましょう。

公認野球規則では、ホームベース側のラインとホームベースとの距離は、幅は「6インチ(約15センチ)」となっています。ボールは周囲が9インチないし9インチ $\frac{1}{4}$ (約22.9cm~23.5cm)なので、直径は約7センチとなり、バッタースボックスとホームベースの間には、ボール2個分が入るスペースが必要です。



バッタースボックスとホームベースとの幅が狭くなることで、打者は通常よりかなりホームベースに近づいて構えることができます。投手が外角に制球力のあるグッドボールを投球したとしても、打者はかなり打ちやすくなります。また、投手は、死球が気になりインコースにも投球しにくくなるでしょう。

どのチームも、投手は冬のオフシーズン間にボール1個分の制球を磨くため、様々な練習をしてきたと思います。練習試合は日頃の練習の成果を試す重要な機会ですが、ラインの引き方で練習の成果が正確に試せないばかりか、投手の調子を崩してしまうことにつながるかもしれません。きちんとしたラインが引かれた競技場で試合ができることは、選手にとって大変プレイがしやすいものです。ラインの引き方で野球観も変わってくることでしょ。

ルール編 WBC (ワールド・ベースボール・クラシック) での出来事

3月7日(火)に開幕したWBCの1次リーグ予選 日本対キューバ戦での出来事。4回裏日本の攻撃、2死走者二塁で山田選手が放った打球は左中間へ。ホームランかと思いきや、スタンドの観客がキャッチしたということで二塁打となりました。スタンドにいる観客が捕ったのですから、ホームランではないでしょうか。

このシーンは、テレビや新聞などでも報道されましたので、多くの方が記憶に新しいことと思います。この場面ですが、打球を捕った左翼スタンドの観客は、右手にグラブを持ちフェンスの前へ手を前に差し出し捕球しています。つまり、スタンドに打球が入る前に捕球していることとなります。

野球規則6.01(e)では、「打球又は送球に対して観衆の妨害があったときは、妨害と同時にボールデッドとなり、審判員は、もし妨害がなかったら競技はどのような状態になったかを判断して、ボールデッド後の処置をとる」と規定されており、審判員は、観衆の妨害を適用した上で、リプレー検証・協議を行い、二塁打と判断したということです。(もちろん、高校野球ではビデオ判定はありません。打球判定を引き受けた審判員が瞬時に判定することになります。その裁定にアピールがあった場合は、審判員の合議での判定が最終となります)

もし、外野のフェンスが低い球場などで観客が、飛球を捕ろうとしている野手を明らかに妨害した場合には、観衆の妨害により打者にはアウトが宣告されます。ただし、野手がスタンドの中へ手を差し伸べて捕球するのを観衆に妨げられても妨害の対象とはなりません。(6.01(e)【原注】)う。

